

17NSJ 静岡県連盟 派遣団 本部長

副理事長 花畑 金亨

## 第17回日本スカウトジャンボリー 感動

2018年8月 第17回日本スカウトジャンボリーが、始まる。サブキャンプ等のスタッフは、2日に入り猛暑の中準備が進められる、707名の大派遣団静岡県連盟18個隊は、4日朝9時日差しが照りつく会場に入る。チャレンジサブキャンプの草原が彼らを迎える。制服を着換え、コンテナを開け、先ずは、日よけのフライを立て設営は順調に進む、一夜にして13,000名のキャンプ村が現れる。珠洲市の人口と同規模である、5日夜に開会式いよいよスタート

7日皇太子殿下を迎えてのジャンボリー大集会、毎晩サブキャンプ広場では、同じ「ちかい」を立てたユース年代のスカウトがリーダーシップを取り自主的に行動を起こし大勢のスカウトが、友情の宴、歌・アクションの活動を開催している。ジャンボリーならではの出来事でありスカウトが感動するジャンボリーである。

スカウト運動を進めるに当たり、リーダー不足が良く聞かれるが、今ここにいるユース年代のスカウトを育てることが必要で有り、取り組まなくてはならない。運動と考える。

それを印象付ける事があった。地元富士に帰り、以前から交流のあるラトビヤのスカウトの交流会に17NSJに参加した、ユースの沙公良さん飛鳥さん等を中心にジャンボリーに参加したスカウトがスマホを活用して、計画を立て運営し、裏方では指導者の協力を頂き素晴らしい交流会が開催出来ました。また、三島では、通称「仏取の会」浄土真宗本願寺派の仏教章を取得したユース年代のスカウトが、交流を深め活動しています。活動の場及び機会を与える事が県連盟の重点項目：「未来を担う指導者の育成」で有り、県連盟100周年に向けてのテーマでもあります。

ジャンボリープログラムは、猛暑の中一時中断もありましたが、「ジャンボリーゲーム日本一」火起こし、班旗立て、では、静岡派遣団で、何と3チーム（班）が閉会式で表彰された、静岡のスカウト技能も評価出来る物です、日頃の訓練の成果で有り隊指導者に敬意を表します。色々な思いの深いジャンボリーもいよいよ9日閉会式を迎えました。その日の夜は、テントではなく、スカウトは、星空の下で夏のそよ風を感じながら最後の一夜を過ごし、10日朝、日焼けした派遣隊は、友情を深めた草原に弥栄を送りジャンボリー会場を名残おしげに、一路静岡へ出発した。

静岡県連盟の参加された指導者の皆様及び支援を戴いた多くの皆様に心より感謝申し上げます。有難う御座いました。弥栄